（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和8年7月1日	～	令和8年8月1日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	23名	（回答者数）	23名
○従業者評価実施期間	令和8年7月1日	～	令和8年8月1日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9名	（回答者数）	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年8月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性や保護者のニーズを踏まえた支援が行われており、個別支援計画や日々の関わりについて高い評価が得られている。	送迎時・連絡帳・電話等を活用して日々の様子を丁寧に共有し、必要時には職員間で情報共有を行いながら個別に対応している。	今後も本人・保護者の意向を継続的に確認し、職員間で支援内容を振り返りながら、より一貫性のある支援につなげていく。
2	活動内容が固定化されないよう工夫され、季節や発達段階に応じた多様な活動や経験の機会が設けられている。	週ごとに活動内容を変え、長期休暇には外出やイベント等も取り入れている。活動内容に合わせて安全に過ごせる空間づくりにも努めている。	こどもの興味や発達段階を踏まえた活動をさらに充実させ、個別活動と集団活動のバランスを意識したプログラムを継続していく。
3	保護者との意思疎通や情報発信、相談への対応について評価が高く、事業所との連絡が取りやすいとの意見が得られている。	連絡帳、SNS、電話、送迎時の申し送り等を活用し、活動の様子や予定、必要な連絡を分かりやすく伝えている。	今後も保護者が相談しやすい関係づくりを大切にし、必要な情報を分かりやすく、適切なタイミングで発信していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のこどもとの交流や、保護者同士・きょうだい同士が交流できる機会について、「わからない」「機会が少ない」とする回答が見られる。	日常の事業所内支援を中心としており、地域交流や家族同士の交流機会を継続的に設けるまでには至っていない。	保護者のニーズやこどもの状況を確認しながら、地域との交流や保護者参加型イベント、家族同士が無理なく交流できる機会を検討していく。
2	家族支援プログラムや研修・情報提供について、実施状況が十分に伝わっていない、または機会が少ないとの評価が見られる。	個別の相談や面談には対応している一方、家族向けの研修や支援プログラムとして定期的に実施する体制が十分ではない。	子育てや支援に関する情報提供を充実させ、必要に応じて保護者が参加できる研修や家族支援の機会を設けていく。
3	職員配置や事故・非常時対応、安全計画について、一部で「わからない」とする回答があり、取組が保護者に十分伝わっていない面がある。	安全面への対応や訓練は行っていても、日常的に保護者が確認する機会が少なく、職員配置についても活動内容によって不安を感じる場合がある。	利用人数やこどもの特性に応じた職員配置を継続するとともに、事故対応・避難訓練・安全計画等の取組を定期的に分かりやすく周知していく。